

会 議 議 事 録

		記 録 者	係長 関ヶ原 功		
供 覧	部長	課長	補佐	係長	課員
件 名	平成27年度第3回龍ヶ崎市総合教育会議				
日 時	平成27年12月22日（火） 午後1時30分から				
場 所	市役所5階 第1委員会室				
主 催	中山一生市長（事務局：企画課地域戦略グループ）				
出席者	<p>中山市長，斎藤教育委員長，高橋教育委員長職務代理者，大野委員，藤後教育長</p> <p>松尾総合政策部長，宮川企画課長，大貫課長補佐，記録者 荒井教育部長，足立教育総務課長，中村教育総務課長補佐，岡野係長， 近野係長，黒田生涯学習課長，小貫指導課長，北澤スポーツ推進課長， 大和田給食センター所長，辻井教育センター所長</p>				
欠席者	1人（鈴木委員）				
傍 聴	4人				
議 題	1 開 会 2 市長あいさつ 3 議 題 (1) (仮称)龍ヶ崎市教育プランの体系図(案)について (2) 小中一貫教育について 4 その他 5 閉 会				
情報公開	公開	非公開（一部公開を含む） とする理由		（龍ヶ崎市情報公開条例9条 号 該当）	
	部分公開 非公開	公開が可能となる時期 （可能な範囲で記入）		年 月 日	

事務局	<p>定刻となりましたので、ただいまから平成27年度第3回龍ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>なお、当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の第1条の4第6項に「原則公開で行うこと」と明記されていることから、本日の会議は公開で行いたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、中山市長より御挨拶を申し上げます。</p>
中山市長	<p>皆さん、改めましてこんにちは。</p> <p>教育委員の皆様におかれましては、師走のご多忙の折、第3回龍ヶ崎市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、先月11月は教育月間ということで「教育講演会」「龍ヶ崎教育市民会議」にご出席していただき、皆様方にはご協力を賜りましてありがとうございました。「教育講演会」は大勢の市民の皆さんが参加される中、「夜回り先生」こと水谷修先生の現場での実践を通じた貴重なお話をいただき、参加された皆さんが、深い感銘を受けられたものと感じております。私は当日、出張が重なり、先生のお話が聞けなかったのですが、帰ってきたらいろいろな人から「素晴らしかった」「よかった」との声をたくさん聞き、なおさら残念な思いを強くしたところでした。「龍ヶ崎教育市民会議」については、最初の取組ということで、参加される市民の方はやや少なかつたものの、活発な意見交換がなされまして、有意なご意見を数多く頂戴できたと考えております。また、市民の声を聞くということはとても大切なことでもありますし、このような取組は続けていく必要があると考えています。また、教育市民会議のあり方については、教育委員の方も含めて、みんなで考えていただければと思います。</p> <p>このような教育月間を終え、今年は暖冬であるとはいえ、朝夕の冷え込みや、本日は冬至ということもあり、今後は年末に向けて、明日は天皇誕生日、明後日はクリスマス、そして学校では終業式で、市役所も仕事納めなど、非常にあわただしい日々が続くこととなります。天候も暖冬ということもあり、変わりやすい中で風邪をひかれている人もいると思いますが、教育委員の皆様におかれましては、この忙しい年末年始、健康にご自愛のうえ、新しい年をお迎えしていただくことをご祈念申し上げます。</p> <p>ここで、お時間を少しいただきまして、先日の市議会定例会における教育関連の一般質問についてお話をさせていただきます。12月3日から12月18日を会期として、平成27年第4回龍ヶ崎市議会定例会が開かれたところであります。議会においては、義務教育学校、小中一貫教育をはじめ、少人数学級、ICT教育、統合問題などに関する一般質問が複数ありまして、私や教育長、教育部長が質問の趣旨を真摯に受け止めながら誠意を持って、前向きに、でき得る限りのお答えしたところであります。この質問のやり取りを行いながら、議会におきましても、本市の教育政策に関する関心・注目が更に高まっていると、肌で感じたところであり、特に、義務教育学校や統合に関する関心の高さを改めて認識したところであります。</p> <p>これらの問題は、少子化が急速に進行している中、早急に取り組みなければならぬ課題であると認識しておりますので、首長部局と教育委員会の連携体制を更に深め、教育委員の皆様からの専門的な見地からのご意見、また、市政を預かる私の立場からの意見を忌憚無く出し合い、お互いに磨きをかけて、龍ヶ崎市教育の内容の充実・向上を図ってまいりたいと考えております。引き続き、よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本日の総合教育会議では、（仮称）龍ヶ崎市教育プラン体系図（案）について、ご協議をいただくとともに、小中一貫教育についての調査につきま</p>

	<p>してのご報告をさせていただきたいと考えております。</p> <p>(仮称)龍ヶ崎市教育プラン体系図(案)につきましては、庁内のワーキンググループにおいて、協議を重ねながら、私の意見などを反映し、さらには、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、「子ども・子育て支援事業計画」との整合に留意し原案を作成したものであります。教育委員の皆様には、すでにお眼通しいただいていると思いますが、本プランは、現在、策定作業を進めております、本市の次期最上位計画の教育部門の柱となる重要な計画でもありますことから、慎重なるご協議をお願いいたします。</p> <p>また、今回の小中一貫教育についての調査につきましては、主に児童・生徒数の推計結果を基にした、小中学校の適正規模・適正配置の視点を中心としたものであります。今後は、カリキュラムをはじめ、教育内容にも踏み込んだ検討が必要になってくると考えております。この小中一貫教育は、喫緊の課題でありますので、本日の総合教育会議でも、しっかりとご意見を交えていただければと思います。</p> <p>お願いばかりとなりましたが、(仮称)龍ヶ崎市教育プランが、これからの龍ヶ崎市の教育の礎となる計画となりますことを心から期待をして、私のあいさつとさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速議事に入りたいと思っております。議事進行につきましては、主催者でございます、中山市長にお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
中山市長	<p>それでは、着座のまま議事の進行を進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>本日の議題であります、会議次第にもございますように、2つの案件について、皆様にご協議いただきたいと思います。</p> <p>本日の会議時間については、3時に終了を予定しておりますので、委員の皆様には、会議の円滑な進捗につきましても、あわせてご協力お願いします。</p> <p>それでは、はじめに議題(1)の「(仮称)龍ヶ崎市教育プランの体系図(案)」について、担当より説明をお願いします。</p>
教育総務課	(資料に基づき説明)
中山市長	<p>ただいま、「(仮称)龍ヶ崎市教育プランの体系図(案)」について、資料の説明がございました。</p> <p>委員の皆様、ご意見、ご質問等をお願いします。</p> <p>教育大綱の中で、少子化というのが喫緊の課題として迫られており、すぐにも対応していかなければならないのですが、あえて少子化という文言は入れないで、マイナスのイメージはこの教育大綱の中に入れなくて、しかし人口減少や少子化というのは現実の問題でもありますので、それであれば子どもたちの教育にどのようにして取り組んでいくのかが大事なのかという視点で、あえて少子化を教育大綱の中に記載していないところでございます。その上で、学力や魅力ある学校づくりのところ、改めて小中一貫教育の視点を踏まえた、新たな学校づくりとして、どのような教育環境を作っていくかというテーマを考えていく必要があると思っております。</p> <p>非常に広い内容なので、何かご質問をとと言われても漠然としてしまうと思いますが、斎藤委員長いかがでしょうか。</p>
斎藤教育委員長	今市長からありましたように、少子化への対応を具体的施策や事務事業の中

	<p>で、どう考えていくか、どのように取り組んでいくかを考える必要があると思います。</p> <p>また、私としては、以前にも申し上げましたが、幼児教育について、未就学児や年齢の低い小学生について、しっかりとした施策を講じていかなければ、大きくなってからの施策が成り立っていかないのではないかと思います。</p> <p>さらには、スマホや携帯などが使われていることから、子どもたちの生活習慣について、私たちがどう捉えて、それぞれの場面において啓蒙啓発活動をしていかなければならないのか。今後強調しいかなければ、子どもたちが健全な成長につながらないと思います。それをどう臨んでいくか。そのような意味では、何をどう大事にしていくか、ということをお私としては、教育プランの基本方針1と基本方針2が大きな役割を担うと思います。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ただ今、未就学児をはじめ低学年以下の子どものスマホ等の様々な要因による環境の変化への対応の施策や方針はこのようになっていますが、その点について何かございますか。</p>
足立教育総務課長	<p>義務教育を所管していることから小中学校だけでなく、今回の議会でもありました幼児教育についても、教育プランの中に入れていきたいと考えております。また、小中連携だけでなく、龍ヶ崎市には高校や大学もありますので、中高連携についても考えられると思っておりますので、その辺も事業として整理して入れていきたいと考えております。また、子どもの健全育成の観点からということで生涯学習課の考えもあると思います。</p>
黒田生涯学習課長	<p>今回の基本方針の2のタイトルが「子どもの健全育成」ということで、これまでは青少年の健全育成ということで進めてきましたが、子ども子育て支援計画の中でも、「子ども」の位置づけが18歳以下の子どもを指すということもありまして、委員長からもありましたように幼児教育について、さらには家庭教育、社会教育も含めた計画ということで、「子どもの健全育成」というタイトルを掲げております。そのようなことを踏まえて、教育プランを作成する中で考え方を整理していきたいと考えております。</p>
中山市長	<p>今の点については、これからの時代を考えると、非常に重要なテーマだと思います。今後、どのようにプランの中に表していくかというのを検討していきたいと思っております。また、斎藤委員長から幼児教育の重要性についてご意見をいただきましたが、それを感じられる教育プランにしていきたいと思っております。</p> <p>他にございますか。高橋委員どうぞ。</p>
高橋教育委員長職務代理者	<p>疑問に思う点を挙げさせていただきたいと思っております。教育プランの基本方針の5つの柱は揺らぎないものだと思いますが、数値目標や指標について、原案では市民まちづくりアンケートの満足度で検討されていますが、これを指標としていいのかが疑問です。他の数値目標もあるのではないかと思います。成果が上がったからといって市民の満足度が上がるのと矛盾する部分もあると思っております。市民の満足度で評価しなければならないこともあると思っておりますが、他の指標で評価したほうがよいものもあるのではないのでしょうか。原案では、すべて市民の満足度で評価しようということになっているので、その他の指標も検討したほうがよいと思っております。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。この点について何かございますか。</p>

足立教育総務課長	<p>成果指標については、アンケートだけでなく、人数、パーセント、進捗状況の数値などがあると思いますが、教育プランの体系図（案）で見ましても100近い事業がございまして、成果を数値化できるもの、出来ないものがあるかと思えます。今でもどのような指標がいいのか非常に苦慮しております。そのため、どうしても数値で表すことができないところは、アンケートを取って満足度を示すように現在議論をしているところでもあります。</p> <p>このため、教育プランの数値目標は、満足度で表すのではなく、数値で表せるものは、人数やパーセントなど、なるべく数値で表していきたいと思えます。</p>
中山市長	はい、他にございますか。
大野委員	<p>教育プランの基本理念は、まちづくりにもつながるとのことですが、一人一人が自らまちをつくっていきこうという気持ちを育むためには、大きな基本方針の中で、指導者や地域の方などまちづくりを担っている方、さらには市の施設などをうまく組み合わせて将来的にまちづくりを考えられる人を育てる必要があると思えます。</p> <p>また、地域の方が自分たちの思いを次の世代につなげていくことが出来るような地域社会を目指していければ、きつとうまくいくのではないのでしょうか。教育だけでは「ひとづくり」は出来ないと思えます。教育は一人の人が成長していくための一つの手段であります。その手段の中でいろいろな経験を踏まえていけば、ひとづくりが出来るのではないかと思えます。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>様々な教育の組み合わせの中で、大切な一つの要素の一つとして、地域とのつながりがあるのだと思えます。例えば市の施策や市がどのようなことを行っているか、私たち、行政側からすると、子ども達にもっと知ってもらいたいと思えます。</p> <p>また、コミュニティ、地域で様々な取り組みを行っているので、子ども達が知らない、いざ、何かに参加するときに、知っているほうが地域にスムーズに入りやすいと思えます。</p> <p>そういったことから、事業のほうに入ってしまうのですが、シチズンシップ教育が特にその役割を担っていくことになると思えます。シチズンシップ教育にはいろいろな意味があると思えますが、これから18歳の方が投票できることから、子どもの頃から社会や政治に対する関心を持ちながら、地域とつながりながら、自分たちの地域の中で生まれ、成長していくことが大事であると思えます。</p> <p>また、先ほどの大野委員のご意見に何かございますか。</p>
足立教育総務課長	「ひとづくり」ということですが、この計画を作る以前に、私たち龍ヶ崎市職員の憲法というべき、龍ヶ崎市のまちづくり基本条例の中に、子どもも一人の人間として、市政に参画できるようにすることが謳われていますので、その辺も念頭に入れ、計画を作っていきたいと思えます。
中山市長	龍ヶ崎市は、市民活動日本一を子育て環境日本一と同じように、大きな柱として立ててきたわけですが、この中核となるべく施設がコミュニティセンターであったわけでありまして。これまでは、コミュニティセンター、イコール、小学校単位であったわけでありましてけれども、今年から長戸小学校が城ノ内小学校と統合した関係で、小学校が無い中核的コミュニティ、長戸は来年度に立ち

<p>藤後教育長</p>	<p>上がる予定ですが、今年から初めてそのようなエリアができて、新しい時代を迎えたと考えております。そこでもやはり子どもたちはいるわけですので、今後はそういうエリアが創生されることになると思いますし、小中一貫という視点で進めていくといろいろな動きが出てくると思います。学校とそのコミュニティは直接のつながりがなくなってしまいますが、そういうところでも地域のつながりが、今後、学校教育も含めて、教育の中で地域が子ども達と地域を育んでいくかについて考える必要があります。</p> <p>これは、これからの時代の要請・課題になると思われます。そのようなことから、様々なご意見やご知恵をいただければと思います。</p> <p>他によろしいでしょうか。教育長いかがですか。</p> <p>今のお話の小学校とコミュニティの関係についてです。今のコミュニティの中には、子どもたちが減少してしまっていて、コミュニティの中に子どもたちがいない事態がやがておきてくると思います。そうすると、小学校の中でその地域というものが非常に広い範囲でないと子どもがいないということになってくると思います。このため、地域と学校という関係が今までに無い関係になることが予想されますので、課題も多くなっていくのではないかと思います。また、教育大綱の中の基本目標2つめの「時代に対応した教育施策」は、システム上の対応ということもあると思います、時代とともに教育が目指すところも変化していく部分があると思います。先日届いた冊子を見たところ、いま求めている学力と、国がこれから求める学力が異なる時が来ると思います。変わらない部分と、変わる分が時代によって変化するので、それに対応する教育施策を考えなければならない時が来ると思うので、そういった意味では、この基本目標は、単に少子化に対応ということだけではなくて、いろんな意味で時代に対応する、社会の変化に対応する教育施策を展開していかなければならないといったことを表していると私は捉えております。</p> <p>また、幼児教育について、先ほど委員長からもありましたけれども「子育て」の部分と「子育て」の部分の違いをしっかりと考える必要があると思います。子育てをするための条件を整備することは考えていますが、子どもが育つためにはそれでよいのかという視点からの幼児教育を考えていかなければならないと考えます。</p>
<p>中山市長</p>	<p>ありがとうございます。この素案を作っていく中で担当者はだいぶ苦勞されたと思いますが、他にいい表現があれば、この会議の場でなくても結構ですので、そのアイデアを教えていただければと思います。</p> <p>また、教育長からは3点ほどありましたが、それについて他の委員の方でご意見等がありますか。</p> <p>地域のことについてご意見をいただきましたが、昔に近づいてきたのかなと思っています。広いエリアから子どもが集まってきた時代もあり、昔の学校と地域のあり方がどのようなものだったのかと考えることがあります。</p> <p>龍ヶ崎市は小学校毎にコミュニティセンターを作った経緯もあり、コミュニティに力を入れてきたところですので。それを中核として新たなコミュニティづくりをしていこうという施策を進めているところは昔とは違う点だと思います。そういったことから、新しい小学校区に中核的コミュニティが、2つ、ないしは3つ、場合によっては4つ入ってくることもあると思いますので、所在するコミュニティに留まらない交流のあり方は、学校や学校教育関係者の皆様と協力していかなければならないと思います。</p> <p>すでに、長戸地区では城ノ内地区の子どもたちと遊んだりするなど、自然な交流がされているなどの話を伺っていますので、そういったことから、子ども</p>

	<p>たちのほうが先を行っているのかなと思います。その点についても、今後の大きなテーマになると思います。</p> <p>また、最後の「子育て」と「子育て」の違いについて、補足説明をしていただければと思います。</p>
藤後教育長	<p>あくまで私個人の意見ですが、「子育て」は条件を整えてあげることがあるかと思っています。その中で、ソフトの部分が「子育て」であると感じています。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>最初に斎藤教育委員長がおっしゃっていたように教育環境がとても変化しており、今の時代は情報が溢れ過ぎているように感じます。このため、子ども達はたくさんの情報の流れにおぼれてしまっているところがあると思います。今の時代の子育てのあり方をしっかりと考えていかなければならないと思います。</p> <p>やはり、私も未就学児と低学年の二人の子どもがおり、この子たちの成長を考えると一番大事なことだと思っています。次世代の子ども達がこれからどのように、それこそ「子育て」と「子育て」をこれからどう充実させていくのかが、やはり大事なことなんだなと考えているところでもございます。</p> <p>事務局からは何かございますか。</p>
足立教育総務課長	<p>今、子育て、地域と家庭とのつながりという話がありましたが、市長の冒頭のあいさつの中にもありましたが、教育市民会議を11月に4会場で行いましたが、私たちが地元に向うと、義務教育である小学校中学校の環境や、学力の問題などの意見が多いと思っていましたが、どの会場においても地域と学校との関わりや家庭での教育についての意見が多く、意外に思っております。龍ヶ崎市が掲げております学校と地域や家庭での連携という教育は間違っていないのだと感じています。地域といっても、時代も変わっていますし、龍ヶ崎市一つとっても大規模な小学校地区のコミュニティと小規模な小学校地区のコミュニティが存在していて、同じようにはいかないと感じております。それぞれの地域にあった関わり方を同時に進めていかなければならないと思います。</p>
中山市長	<p>はい、それでは時間もありますので、最後になりますが、何かご意見等があればお願いします。</p>
藤後教育長	<p>教育プランの体系図の方向としては、原案のとおりでよいと思いますが、最終的に教育大綱となる時に、文言の整理などをしていただければと思います。</p>
中山市長	<p>はい。それでは、それでよろしいでしょうか。</p> <p>よければ本日の会議での意見をいただいたうえで、次回の会議までにもご意見やご知恵をいただきながら、進めていきたいと思っております。</p> <p>それでよろしいでしょうか。</p>
全委員	<p>はい。</p>
中山市長	<p>それでは、「(仮称)龍ヶ崎市教育プランの体系図(案)」は、今の意見を踏まえて、次回に教育大綱を協議する中で、文言の整理なども行いたいと思っております。</p> <p>続きまして、議題(2)の「小中一貫教育について」について、担当より説明をお願いします。</p>

教育総務課	(資料に基づき説明)
中山市長	<p>ただいま、「小中一貫教育」について、資料の説明がございました。</p> <p>教育総務課からの説明にもありましたように、本日は「小中一貫教育」について、初めての議題ということでもありますので、皆様からは、率直なご意見とか、ご質問などをしていただき、小中一貫教育について、理解を深めたいと思います。</p> <p>委員の皆様、ご意見、ご質問等をお願いします。</p>
大野委員	<p>小中一貫教育について、施設一体型・併設型だと教育環境や成果がよいことが分かりますが、施設分離型は分かりにくい部分があると思います。龍ヶ崎市でも施設分離型であればすぐにでも出来るのではないかと思います。ただし、施設分離型は、全国の市町村でも7割から8割がこの形態で実施していることもあり、先ほどの説明でも成果が見えにくいとありましたが、私もそう思います。施設分離型なら学校の名称の変更や教職員の配置などを行うことで可能となるので、龍ヶ崎市でも今すぐに出来ると思います。しかし、私は施設分離型での小中一貫では成果が見えにくい為、あまり意味がないのかなとも思います。</p> <p>また、新しい学校、施設一体型の小中一貫校を建てるのは費用がかかるため、現段階では難しいと思います。施設一体型は龍ヶ崎小学校であれば可能との説明がありましたが、例えばですが、施設一体型でも、愛宕中学校と城南中学校を統合せずに、それぞれの中学校区単位で小中一貫校を配置することでの小中一貫教育もあるのかなと思います。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今のご意見について、何かございますか。</p>
足立教育総務課長	<p>全国の小中学校が約30,000校ありまして、その中で約1,200校が小中一貫教育を行っており、その9割方が施設分離型になっております。</p> <p>小中一貫教育は、財源や敷地面積において難しい面もありますが、施設一体型の方が成果が出やすいなどのメリットはあるものと思います。</p> <p>資料における小中一貫校の考え方は、子どもの人数や敷地面積を単なる数として組み合わせたものであり、教育総務課の内部で組み合わせて作ったものがあります。これから龍ヶ崎市が学校の統廃合を進めるにあたっては、地域の方のご理解を得て進めていく大前提がありますので、それを踏まえて地域に入って協議しながら決めていかなければならないと思っています。</p> <p>今回の資料は、大前提として、6年後の子どもの人数と適正規模適正配置を踏まえ、今ある学校の施設と敷地を考慮して、龍ヶ崎市で小中一貫教育を実施することをシミュレーションしたものです。</p> <p>このため、9年間のカリキュラムなどはこの資料には、入れていません。小中一貫教育を検討していくためには、地域の方のご意見も参考にしていかなければならないと思います。</p> <p>今後、小中一貫校のあり方はカリキュラムや教育内容を踏まえて協議していかなければならないと思います。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>少子化の中で子ども達により良い教育が受けられる環境をどのように作っていくかという視点で考えていくと、小中一貫教育は、今後の龍ヶ崎市の教育の柱になりうるものであり、検討する価値のあるものだと考えています。この件</p>

	<p>は、第1回の総合教育会議でも触れたことであります。これでもいけないというのではないので、これからより良いものを選んでいかなければならないと思います。</p> <p>先ほどの意見について、またそれ以外でも何かございますか。</p> <p>資料の概要版の最初に小中一貫教育について、茨城県の事例の事例が記載されていますが、これを見ますと、つくば市の春日学園は別として、水戸市、常陸太田市などは全校生徒の児童生徒数が200名に満たない少ない状況であり、これは先ほどの地域と学校の関係で、地域に学校を存続させるために、小中一貫教育をせざるを得ないのかなと思います。</p> <p>また、つくば市の春日学園は、施設一体型で行っていますが、それ以外の小中学校は、施設分離型で行われています。</p> <p>教育行政上からいくと地域に格差を生んではいけないということで、施設一体型がいいからといって全て施設一体型にしようと思っても、どの市町村でも一気に施設一体型を作ることとは不可能であります。その一方で、施設一体型だけ作り、その他は現状のままにすることはいけないと思います。</p> <p>教育効果を得るためには他の施策を考えていかなければならないと思います。子どもたちの教育をどのようなシステムで行っていくのが一番良いのか、地域によってどのシステムが適しているのかを考えながら、小中一貫教育を進めていかなければならないと思います。</p>
<p>藤後教育長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>龍ヶ崎市においては、地域の特性がありますので、この地域ではどのシステムがいいのかなどを考える必要があると思います。</p> <p>この点について、何かございますか。</p>
<p>中山市長</p>	<p>地域によっては、規模や特性などが異なっているので、地域にあった教育を考える必要があると思います。</p> <p>また、総合教育会議をはじめ、教育委員会定例会や文教福祉委員会といったいろいろな場で勉強や協議を行っていきたいと考えております。</p>
<p>足立教育総務課長</p>	<p>地域特性については、特に考えていく必要があると思います。地域の成り立ちを大切にしながらも、龍ヶ崎市が一体感をもてるような取り組みを行っていきたいと考えています。このことは、これからの課題としていきたいです。</p> <p>他に何かございますか。</p>
<p>中山市長</p>	<p>小中一貫教育について、内容や成果がはっきりしないまま進んでいくような印象を受けます。龍ヶ崎市の子ども達にとって、一番良い教育の形として何が良いのかを考える必要があると思います。小中一貫教育ありきではなく、現状のシステムの良いところをしっかりと評価していただければと思います。</p> <p>こちらの資料は、行政側からの小中一貫教育に関する報告書であるならば、学校の現場の先生からも小中一貫教育への考え方について資料もしくはお話を伺える機会があれば嬉しく思います。</p>
<p>高橋教育委員長職務代理者</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今の件について、ご意見などはございますか。</p>
<p>中山市長</p>	<p>その通りだと思います。ただ小中一貫校を作るのではなく、学校の先生方の意見も大切にしていきたいと思っています。</p>
<p>足立教育総務課長</p>	

<p>中山市長</p>	<p>施設分離型の小中一貫校を作るのは簡単であります。小中一貫校を作ることが目的ではないので、子どもを育てるとい教育が目的であるので、その点を踏まえて地域にふさわしい小中一貫教育かを見据えながら考えていく必要があると思います。</p> <p>龍ヶ崎市の全体の教育を考えていく中で、何が最適かを考える必要があると思います。この点はしっかりとこのような会議を含めて、各関係課や関係担当者が知恵を絞っていかなければならないと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。</p> <p>他に何かございますか。</p>
<p>齋藤教育委員長</p>	<p>龍ヶ崎市の現状や児童生徒数の推移には驚きを覚えました。</p> <p>私たちにできることは何なのか、それが小中一貫教育なのか、学校の統合と並行して考える必要があると思います。ただし、統合ありきで考えてはいけなと思いますし、小中一貫教育だけを考えていくと統合はどうなっていくのか考えていかなければならないと思います。</p> <p>また、地域性を大切にしながら、児童生徒数がこれだけ減ることを踏まえ、現実の問題としてどのようにしていくか、学校ももっと真剣に考えていかなければならないと思います。学校現場においても、小中一貫教育や統合問題についての具体的な話を保護者や地域の人など、たくさんの人を巻き込んで考えていく必要があると思います。</p> <p>また、理想的な学校規模を踏まえ、これからは小学校単位、中学校単位で協同経営を考えていく必要があると思います。児童生徒数の推移や経過措置をとっていく中で、バラバラな経営をしていて良いのかを考えなければならぬ。これを踏まえながら、子ども達に等しく教育を受けさせる必要があると思います。学校現場ももう少し危機感をもって、龍ヶ崎市の教育を考えていくべきであると思っています。</p>
<p>中山市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>これからの推移の中で、教育関係者のご意見を参考に今後のあるべき姿をしっかりと考えながら、進めていかなければならないと思います。学校の先生も龍ヶ崎市以外の市町村を人事異動で見ているため、教育側からの話を聞くことが出来ればと思います。</p> <p>他に何かございますか。</p>
<p>荒井教育部長</p>	<p>齋藤教育委員長の話にもありましたように、学校現場も危機感をもって考えていかなければならないということで、教育委員会内部での議論や学校現場を交えた議論を深めていき、龍ヶ崎市の今後の教育のあり方を考えていく必要があると思います。</p> <p>先日、小規模校の一つである川原代小学校で、今後の児童数の推移の話をしたところ参加者は沈黙してしまいました。現実の厳しさを初めて地域の人にお示したところです。</p> <p>地域の人と情報を共有し、自分たちの子どもや孫にとって、どのような教育環境がいいのか、いろいろな議論をしながら、小中一貫教育についても道筋をつけていければと思います。</p>
<p>中山市長</p>	<p>地域それぞれの個性があり、地域の自治体に関心が高く、大切にしてくださっています。今後の人口推移は、厳しさを踏まえることがあると思いますが、教育については、前向きなビジョンをもって考えていく必要があると思います。</p>

事務局	<p>子どもたちの生きる力を育むためのビジョンを見せていく必要があると思います。それがあれば、地域の人々の理解を得ながら、小中一貫教育を進めていくことが出来ると思います。</p> <p>今後も、皆様からご指導をいただきながら、進めていきたいと思います。</p> <p>それでは、皆さんの御協力に感謝申し上げます。議事進行の役割を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>最後に、事務局から連絡事項などがありますか。</p> <p>次回の総合教育会議は、来年の2月24日（水）午後1時30分からの開催を予定しています。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
-----	--